

# 文部科学大臣杯 第20回小中学校将棋団体戦 神奈川県大会 開催要項

中学校の参加チーム数が技能文化会館の定員より多い場合は6/23, 6/30の二日に振り分けて開催します。

どちらの日でも参加できることをご確認の上申し込みしてください。

- ※ 今大会は対局数を4局（午前3局 午後1局）とし途中で昼食休憩を入れます。昼食持参とします。
- ※ チーム編成が規定通りに行われていない申込書は受付できません。申込者が不備の有無を点検し、不備を申込期間内に訂正されない場合は失格となります。十分ご確認の上申し込みしてください。
- ※ 当日、午前6時の時点で以下の5種類の警報が1つでも横浜市に発表継続中の場合、大会を中止とします。  
ア. 暴風警報、イ. 大雪警報、ウ. 暴風雪警報、エ. 特別警報(大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪)、オ. 降灰警報
- ※ 試合の出場日、組み合わせ等は、大会のおおむね一週間前にホームページに掲載しますので、必要部分を印刷してご持参ください。

## 1 日時・会場 令和6年6月23日（日） 小学校大会 中学校大会(1)

横浜市青少年育成センター（関内ホール地下2階）

045-664-6251（JR「関内」駅北口 歩7分）

（横浜市営地下鉄「関内」出口⑨ 歩5分）

## 6月30日（日） 中学校大会(2)

横浜市技能文化会館（2階 多目的ホール・他）

045-681-6551（JR「関内」駅南口 歩5分）

（横浜市営地下鉄「伊勢佐木長者町」出口② 歩3分）

## 2 内容 団体戦 1チーム3名による小学校・中学校別 学校対抗団体戦。（2名・4名のチーム編成は不可・文部科学大臣杯参加規程による）。

上位チームは、文部科学大臣杯 第20回 小中学校将棋団体戦 東日本大会に出場する権利を得る。（昨年は小学校3チーム、中学校5チーム）

## 3 出場規定

- i 神奈川県内の小中学校に所属する児童生徒であり、各学校毎にチームを組むこと。
- ii 1チームは3名（限定）とし、各学校の申込チーム数の上限は設けない。  
ただし、申込チーム数が定員枠を超えた場合、チーム削減をお願いする場合があります。  
同じ学校であるのなら、部活動・クラブ活動以外のグループでも出場できる。
- iii チーム名は所属する学校名とし、複数出場の場合は学校名の後に、段級点合計の高い順順にA・B・C・・・と順番に付記する。登録されたメンバー・オーダーは変更できない。
- iv 出場校は、必ず学校に担当教職員1名以上を置く。また、当日は1名以上の引率者（保護者可）がつかなければならない。
- v 参加選手は各自一組の将棋盤と駒を持参する。対局時計も可能ならば持参する。

## 4 参加費 1チーム 1200円（当日納入）

## 5 申込方法 インターネットで「神奈川県小中学校将棋連盟」ホームページから申し込む。

※ 申込先アドレスと申込書は、「第20回」のものをご使用ください。

※ 申込先アドレスは、[ysmk2001@f02.itscom.net](mailto:ysmk2001@f02.itscom.net) です。

## 6 申込期間 小・中学校とも 令和6年5月18日（土）～24日（金）18:00 必着

## 7 主催 日本将棋連盟 神奈川県支部連合会

共催 神奈川県小中学校将棋連盟

## 8 審判長・役員 審判長 未定 運営委員長 関田 隆 他

## 9 大会時程

9:20 ~ 9:30	受付 選手はトイレ等を済ませ着席待機
9:40 ~ 10:10	開会式・諸注意
10:20 ~ 14:05	試合(4 試合) 途中で昼食休憩
14:05 ~	片付け・閉会式・表彰

10 表 彰 代表チームに賞状を授与。各リーグの3位まで賞状を授与。

## 11 運 営

(1) **参加チーム決定方法**(出場チームを制限する場合) ※文書末の図表を参照

- ① 各校の第1順位のチーム(Aチーム)を入れていく。
- ② 参加枠に余裕がある場合、次に各校の第2順位のチーム(Bチーム)を入れていく。これを繰り返す。(C、D、…)
- ③ ある順位のところでは全校のチームが入りきれない場合は、次の優先順位で決定する。  
優先順位1 参加チームが多い学校のチーム。  
優先順位2 学年点の高いチーム。
- ④ ③の方法で決まらない場合は、役員会で抽選により決定する。

(2) **チーム編成方法**(例:9名の場合)

- ① 参加者の実力順(段級点の高い順)に1位~9位まで順位をつける。
- ② 上から3人ごとにチームを構成する。1位はAチームの1番手、2位は同2番手、3位は同3番手となる。4~6位はBチームの1~3番手、7~9位はCチームの1~3番手となる。  
なお、各チームの1番手を主将、2番手を副将、3番手を三将とする。

**申込書提出後に実力の変動があった場合でも、チームの再編成はできない。**

(3) 代表チーム選考方法

代表を決める選抜戦は、小学校・中学校別々にリーグを構成し実施する。小学校選抜戦の参加数は8チームを原則とする。中学校選抜戦の参加数は16チームを原則とする。これらのチームの選考に当たっては、参加申し込み票に記された、段級点と学年点の合計の高いチーム順に選考していく《書類選考》。この後、各選抜戦を行い、リーグ戦等により順位を決定する。書類選考の結果、選抜戦出場に至らなかったチームは、交流戦の部に出場する。

**中学校選抜戦(16チームのうち代表5チームの決定方法)**は以下のように編成する。

- ① 16チームを棋力順に上位8チーム(Aリーグ)と下位8チーム(Bリーグ)に分ける。
- ② 各リーグをほぼ均等になるよう4チームずつ2組に分ける。(A1、A2で4チームずつ)
- ③ 各組でリーグ戦を行い、1位から4位を決定する。(A1で1~4位、A2、B1、B2も同様)
- ④ 各組の同順位同士で対局しリーグの1位から8位を決定する。(A、Bリーグで1位~8位)
- ⑤ Aリーグの1位から4位を代表チームとする。
- ⑥ 残りの1枠はAリーグ5位とBリーグ1位による決定戦を行い、勝者を代表とする。敗者を補欠とする。

**中学校交流戦**は、次のように行う。

- ① 棋力順に8チームで1つのリーグを構成し、各リーグを4チームずつの2組に分ける。
- ② 各組ごとに4チームのリーグ戦(3試合)を行って、1位から4位を決める。
- ③ 2つの組の同順位チームで順位戦(第4試合)を行って、1位~8位を決める。

**小学校選抜戦(8チームのうち代表3チームの決定方法)**は以下のように編成する。

- ① 8チームをほぼ均等になるように4チームずつ2組に分ける。(A1、A2で4チームずつ)
- ② 各組でリーグ戦を行い、1位から4位を決める。(A1で1~4位、A2で1位~4位)

③各組の同順位同士が対局し、リーグの1位から8位を決定する。

④リーグ1位～3位を代表チームとする。4位を補欠とする。

小学校交流戦も中学校と同様に行う。

小学校、中学校ともにエントリーの状況によって、試合形式等、変更の場合がある。

以上のように決定された代表チームが

**文部科学大臣杯 第20回小中学校将棋団体戦 東日本大会**に出場する権利を得る。

#### (4) チームの勝敗決定方法

- ① 勝者の数が多い方を勝ちとする(3勝0敗、2勝1敗の場合。まれに1勝0敗など)。
- ② 勝者数が同数の場合(欠席や千日手などで1勝1敗や1勝1敗1引き分けなど)では主将(1番手)が勝者のチームを勝ちとする。主将が引き分けの場合は副将(2番手)が勝者のチームを勝ちとする。
- ③ これによっても決まらない場合、リーグ戦では引き分けとする。引き分けの場合は0.5勝とする。順位決定戦(引き分けが不可の場合)は抽選で勝者を決定する。

#### (5) リーグ戦などの順位決定方法

- ① チームの勝ち数の多い方を上位とする。(チームの引き分けを0.5勝として加える)
- ② チームの勝ち数が同数の場合は、個人の勝ち数の合計が多い方を上位とする。  
(個人の引き分けを0.5勝として加える)

これによっても決まらない場合は、以下の方法で順位を決める。

- ③ 主将(1番手)の勝ち数 ④ 副将(2番手)の勝ち数 ⑤ 直接対決の結果 ⑥ 抽選

#### (6) 持ち時間 1人10分の持ち時間とし、使い切ったら1手30秒未満の秒読みとする。

全体の進行上、持ち時間を変更することも有り得る。

なお、対局時計の準備状況によっては、時計を使わずに行う試合もある。

#### (7) 対局

- ① 対局は総平手とする。
- ② オーダーは最上位者を主将(1番手)とし、その後は段級点の順序とする。
- ③ 両チームの対戦の先後は主将(1番手)の振り駒による。2番手以降は先後を交互にする。
- ④ 相手のチームが遅れた場合、審判員立会いの下、主将が振り駒をし、相手方のチェスクロックを作動させる。開始後時間が切れた場合、失格とする。引率者が遅れた場合、引率者が到着するまで試合に参加することはできない。
- ⑤ チェスクロックは、後手番の好きな方に置き、必ず指した手で押す。
- ⑥ 持ち駒は盤の右側に置く。互いの持ち駒が見える位置に置く。駒箱は駒台として使わない。
- ⑦ 同一局面が4回生じた場合千日手とする。千日手の場合は引き分けとする。
- ⑧ 相入玉しそうな局面になった場合や、試合終了まで大幅に時間がかかると予想される場合は審判部の裁定を求める。(相入玉の判定は27点法でおこなう。同点の場合は後手の勝ち)
- ⑨ どちらかの投了で勝敗を決定する。投了は「負けました」とはっきりと相手に分かる言葉と態度で意思表示をする。
- ⑩ 次の行為は反則負けとする。対局相手の反則を発見した場合は、それを指摘するか審判の判断を求める。(⑫を参照) ただし、終局後の反則の指摘は無効とする(投了優先という)。

- ・二歩 ・打歩詰め ・王手放置 ・駒が動けない所に動く ・二手指し（手が離れれば指したことになる） ・動けない駒を打つ（歩・香の一段目など） ・連続王手の千日手 ・成れない駒が成る
- ⑪ **他者の助言を禁止する。**また、対局者が助言を求める行為も禁止する。対局者以外の者の指摘、例えば、「時計の押し忘れの指摘」や「二歩等の指摘」、「目による合図」「うなずき」等も助言に当たる。なお、助言が生じた場合は、助言者との関係がより強い選手の方を負けとする。
  - ⑫ 対局中、何か問題が起こった場合（相手の反則を発見した場合など）、又は自分では解決ができないような状態になった場合（急な腹痛など）には、対局者は手を挙げて審判員の判断を求めることができる。必ず時計の「**中断**」を押した後、手を挙げること。
  - ⑬ その他、運営上生じる問題は、日本将棋連盟の規約に準じ運営部が裁定する。指示に従うこと。

(8) その他

- ① 大会への参加やチーム編成などでご質問やご相談がありましたら、当連盟にご連絡ください。
- ② **遅刻・欠場者が生じた場合、必ず当日の受付と会場内の参加リーグ本部で申し出る。**
- ③ 出場申し込みが受理された時点で、参加が決定される。以後、辞退が生じた場合でも、参加費の納入は義務付けられる。
- ④ 当連盟及び新聞社が記録のため撮影することがあります。不都合な場合はご連絡ください。
- ⑤ 緊急の対策等が必要になった場合に備え、申込書に必ず緊急連絡先（携帯電話）を記入してください。

「参加チーム決定方法」（出場チームを制限する場合）

例:申し込み10校48チームから、40チームが出場すると仮定した場合。

はぶ中学校 A 1 B 11 C 19 D 26 E 32 F(学年点8) G	いなば中学校 A 2 B 12	ひろせ中学校 A 3	さとう中学校 A 4 B 13 C 20 D 27 E 33 F(学年点8) 40 G	くぼ中学校 A 5 B 14 C 21 D 28 E 34 F 38 G H I	とよしま中学校 A 6 B 15 C 22 D 29 E 35 F	ふかうら中学校 A 7 B 16 C 23 D 30 E 36	みうら中学校 A 8 B 17 C 24	いとだに中学校 A 9	あくつ中学校 A 10 B 18 C 25 D 31 E 37 F(学年点9) 39 G
--	-----------------------	---------------	--	---	---	--	-------------------------------	----------------	---

手順①+②  
A→B→C→D→Eまでは参加チーム数に余裕があるので、「あくつ中学校Eチーム」までの37チームは、最初に参加確定。

手順③ 優先順位1…参加チーム数が最も多い「くぼ中学校」を優先。「くぼ中学校Fチーム」は参加確定。

優先順位2…「はぶ中学校」・「さとう中学校」・「あくつ中学校」は申請チーム数が同じ。  
よって、学年点の高い「あくつ中学校Fチーム」は参加確定。

手順④ 「はぶ中学校Fチーム」・「さとう中学校Fチーム」は、学年点も同じ。このため、役員会による抽選によって決定。

○段級位を段級点に変換する表

段級位	四段以上	三段	二段	初段	1～2級	3～4級	5～6級	7～9級	10～12級	13級～初心
段級点	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1